

会 議 録

会 議 の 名 称	令和2年度第4回行田市総合教育会議
開 催 日 時	令和3年3月17日（水） 開会：午後2時　閉会：午後3時30分
開 催 場 所	行田市役所本庁舎　3階　305会議室
出席者（委員） 氏 名	石井直彦市長、鈴木トミ江教育長、岸田昌久委員、 鹿山高彦委員、飯塚千十世委員、大澤恵子委員
欠席者（委員） 氏 名	なし
事 務 局	石川副市長 学校教育部：吉田学校教育部長、荻原参事兼学校教育課長事務取扱、 諸貫学校教育部次長兼教育総務課長 総合政策部：畔上総合政策部長、鴨田総合政策部次長兼秘書課長、 島田企画政策課長、横倉企画政策課主査、 渋澤企画政策課主任
会 議 内 容	・ 議事 （1）教育大綱（案）について ・ その他
会 議 資 料	・ 会議次第 ・ 総合教育会議構成員名簿 ・ 資料1：第2次行田市教育大綱（案） ・ 参考資料：行田市総合教育会議設置要綱
そ の 他 必 要 事 項	傍聴者　2名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	1 開会 2 市長あいさつ 3 議事
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、次第の3「議事」に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて確認させていただく。本日の会議は、議事の中で個人情報を取り扱う予定がないことから、原則公開とさせていただく。また、会議録の作成は要点筆記とし、委員名を明記の上、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて公開させていただく。 ・それでは、本日の「議事」に入る。進行については、要綱第4条第1項の規定により、会議の議長は市長が務めることとなっていることから、ここからは石井市長に議事の進行をお願いする。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、暫時、議長を務めさせていただく。 ・はじめに、議事の「行田市教育大綱（案）」について、事務局から説明をお願いする。
事 務 局	<資料1により説明>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議でお示しした素案をもとに、皆様からいただいた意見を踏まえて説明のとおり一部修正を行っている。 ・さらに修正が必要であれば、どのように修正したらよいかも含めて、委員の皆様よりご意見を伺いたい。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議での意見を反映していただいたことは大変良かった。 ・前回会議の参考資料であった第6次行田市総合振興計画（案）については、原案のとおり決定したという認識でよいか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・第6次行田市総合振興計画については、「基本構想」と「基本計画」で構成されている。 ・「基本構想」については、市議会において過日ご議決いただいたところである。 ・「基本計画」については、本年度中の策定に向け現在作業を進めているところである。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・本大綱（案）については、教育行政に関する基本理念や各種施策の方針を定めるものとされており、内容についても幅広いものとなっている。こうした点も踏まえて、皆様より様々な視点からご意見をいただきたい。

飯塚委員	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の意見を反映し、「障がいのある子どもや特別な支援が必要な子ども、その家族等への支援」だけではなく、「多様なニーズに応じた教育」としていただいた。こうした表現により、生きづらさを抱えている多くの子どもたちに対しても寄り添えるような内容となる、大変良い修正となった。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・教育行政に関しては、今後も広く皆様の意見も取り入れながら、ともに前進していきたいと考えている。 ・他に意見もないようなので、「行田市教育大綱（案）」については、本案に基づき、今年度中に策定させていただく。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、その他として本市の教育行政を担っている皆様と、さまざまな案件について広く意見交換をしたい。 ・はじめに、「学力向上の現状と対策」について意見交換したい。まず、埼玉県学力・学習状況調査の結果も踏まえ、本市の学力の現状や改善点、今後の方策等について、教育長はどのようにお考えか。
鈴木教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・本市ではこれまで、基礎学力の向上を中心に各学校において積極的に取り組んできており、7月に行われた埼玉県学力・学習状況調査においては、基礎学力部分について県平均点と同等又は上回る結果となった。これらは、昨年度までの取り組みが一定程度成果となって表れたものと考えている。 ・一方で、読解力や思考力といった「考える力」が必要な分野については、今一步伸長が見られていない状況にある。問題を理解し、筋道を立てて解決する力を養うには、授業内容の改善が必要であると改めて認識している。 ・また、成績が伸び悩んでいる学校に対しては、その底上げを図るため、学力向上支援教員の配置をはじめとしたサポート体制や指導体制について、これまで以上に充実を図っていかねばならないと考えている。 ・本市の学力の現状については、決して上位ではなく、現段階においては埼玉県の平均点以上となることを目指すというレベルである。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県学力・学習状況調査の結果だけを見ると、ほぼすべての教科で埼玉県の平均点以下となっている。こうした現状を教育委員においてもしっかりと認識していただき、その上でどんな改善策が効果的であるか、こうした場を活用して議論していきたい。 ・他市町村と比較して、本市の結果が低い原因についてどのように分析しているか。

鈴木教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・力を伸ばしている学校を見ると、これまで足りなかった部分をピンポイントに補える効果的なドリル学習や補習授業等が一定の成果を挙げたものと認識している。 ・今後は、全学校一律の改善策ではなく、各学校の現状に沿った柔軟な弱点克服策が重要であると考えている。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・こういった分野において学力が伸びていないという分析は、比較的容易に行えるはずである。これまで、各学校に対してはどのような指導を行ってきたのか。
鈴木教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・校長会や面接等を通じて各学校の課題を把握、分析するとともに、担当指導主事による指導等を行ってきたところである。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうした指導を行っても、結果として表れていないのが現状である。また、どのような指導を行ったのかは記録として残し、今後活用していくべきではないか。 ・学校ごとに弱い部分を洗い出し、それを克服するためにはどのような指導が必要であるのかを教育委員会において分析する等、効果的な指導、対応を図っていく必要がある。 ・点数が低い要因を調べたうえで、その対応策を具体的に指示すべきである。同時に、その内容について積極的に委員の皆様とさまざまな場において共有し合い、よりよい対応策を考えていく必要があるのではないか。 ・子どもたちの学力が伸びていない現状は、私たち大人にも原因があり、一生懸命授業に取り組んでいる子どもたちに申し訳ない。学力・学習状況調査の結果が埼玉県の前平均点以下であるという事実は大変憂慮すべきものである。 ・これまでも学力の向上が見られてこなかったにも関わらず、それに対応する具体的な方策が見えてこないことが問題であり、どこかで大きく転換しなければ、現状がただ続くばかりとなってしまう。 ・今後は学年ごとの学力の変化を細かく把握し、これまでの取組みを大きく変える必要があるか検討をするべきではないかと考えている。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症は、世界全体に影響を及ぼしており、本市の子どもたちのみに影響があったわけではなく、学力についても他市町村と状況は同じであるといえる。 ・埼玉県の平均点や近隣市の結果等を比較しても、本市の結果は決して芳しいものではなく、今後においても大変心配に感じている。 ・学力・学習状況調査の結果については、その点数だけを見るので

議 長	<p>はなく、昨年度からどれくらい点数が伸びたのかも見ていく必要があるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年より悪化した教科もあり、その原因を細かく分析し実態をしっかりと把握したうえで、何をすべきかを具体的に考えていく必要がある。 ・皆様の知見を活かしたさまざまな意見を寄せていただき、みんなで学力向上を考える体制をとっていきたいと考えている。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業の延長に埼玉県学力・学習状況調査の結果があり、先生たちには、単元ごとに行っているテストの結果等についてこれまで以上に敏感になってもらう必要があるのではないか。 ・学力・学習状況調査の結果が悪かったということは、一義的には普段の授業内容を子どもたちに十分理解してもらえていないということであり、それについても先生たちに理解し危機感を持ってもらう必要がある。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・学力・学習状況調査の結果について、それぞれの学校は、自校が市内の学校の中でどの程度の順位なのか把握しているのか。 ・各学校における取組みについても教育委員会においてしっかりと把握し、原因を分析する必要がある。
鈴木教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校では、自校の平均点について把握できるが、順位については分からない。来年度に向けては、各学校においても自校の弱点を分析の上、対応していくことを検討している。 ・本市においては、学力が中位にある子どもたちの伸びが見られていないことが一つの課題であると認識している。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の中位の層にある子どもたちはなぜ今一步伸びが見られないのか、どのような対策を施せば向上に結び付くのか、新しい対策をどんどん打ち出していかないと何も変わらない。 ・私は学力の向上や学校生活の充実が、一番の人口減少対策になるものと考えている。せめて、市内の学校間の学力格差はできるだけ小さくなるようにしていかなければならない。
鈴木教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の教育現場においては、若手の先生たちも多く、日々の授業のやり方に迷いを持っている先生たちもいる。こうした先生たちをサポートし、授業力の向上を図るための方策について現在検討をしているところである。 ・また、他校の良い授業の実例を多くの先生の間で共有できるような仕組みづくりも検討していきたいと考えている。

議長	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校においては学力定着への支援を行う「学力向上推進委員会」という組織があることから、こうした場も活用して、それぞれの学校別の課題や弱点、その対策についても話し合っていきたい。 ・子どもたちの学力を向上させ、学びの質を上げるためには、できるだけ多くの策を施していくことが必要で、多くの策を行えば行うほど学力の向上につながっていく可能性が高くなっていくのではないか。今後についてはこれまで以上に、できるだけ多くの手段を用いて授業の改善や取組み方法の改善を図っていく必要がある。 ・これまでも同様のことは当然行っていることと思うが、学力の向上が今一つ見られない以上、従来の取組みだけではまだまだ不十分であったということではないか。多くの手段を用いて実践し、その結果を比較、検討するなどして、どのような手段がどれだけの学力向上につながっていったのかを客観的に把握してもらいたいと考えている。 ・子どもたちが一生懸命に取り組めば、必ず結果が出るのだということを、私たち大人が子どもたちに示していく責任がある。
飯塚委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の子どもたちは、昔と比べて取り組むべきことが多く、学習時間を確保することも難しい現状にある。また、自分自身で計画的に物事に取り組み、自らのやるべきことを主体的にコントロールする力もこれまで以上に身に付けさせる必要があるように思う。 ・同時に、学校から保護者に対しても、家庭学習に関する指導やサポートをお願いしたい。学力が比較的上位にある他都道府県においては、予習や復習といった学習時間が十分に確保できているといった報告もあり、学校の授業ではまかないきれない学習については、家庭学習の質の向上や短時間でも効果的な学習を図っていくことで、総合的な学力向上に結びついていくものではないかと考えている。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の質の向上を図るうえで最も重要なことは、子どもたちの集中力を向上させることではないか。 ・ある学校においては、朝の授業前の時間に、ミシンを使って子どもたちに縫製させることを取り入れていると聞く。また、計算問題や漢字テスト等を短時間で解くことで集中力を鍛えるような取組みを行っている学校もあり、そうした競争性のある取組みを授業前に取り入れることも検討するべきではないか。
鈴木教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・本市においては、集中力を育成するために朝の時間帯に読書に取

<p>議 長</p>	<p>り組ませている学校もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・またどの学校においても、朝の時間帯をいかに過ごすかがその後の学習の質の向上にもつながるものと認識しており、朝の時間帯を活用した取組みは多くの学校で行っているところである。 ・重要なのは、そうした取組みを行った結果、どのような成果が見られたのかを分析することである。「〇〇学校」での「〇〇の取組み」が、「〇〇の結果」に結びついたということを具体的に示したうえで、そのような事例について皆様と意見交換をすることが非常に重要ではないか。
<p>大澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の時間帯での読書により、集中力の育成や知識の集積が図られるだけではなく、本をより身近に感じることができるといった点も一つの効果ではないか。 ・実際に朝の読書に取り組んでいる学校では、図書館の利用者数が増加したり、教科書を開くことに抵抗を感じなくなったという声もある等、そのメリットは大変大きいものであると考えられる。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、朝の時間帯を活用した取組みやそれぞれの学校での工夫について、教育委員会においてしっかりと把握、分析し、どういった取組みがどのような成果を生んでいるのかを詳細に見ていく必要がある。 ・さらに、効果が挙げた取組みを市内の他の学校にまで波及させていくことが、学力向上への近道となるのではないか。
<p>大澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどあったように、これからの学校を支える担い手となる若手の先生たちの育成も非常に重要である。先生同士で実態を共有した上で、現在の本市の子どもたちの学力に関して危機感を感じてもらい、その対策を先生たちにも主体的に考えてもらうことが必要ではないか。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会においては、朝の時間帯や宿題の現状、補習授業の実施状況等、どの学校でどのような取組みをしているのかをまとめてもらいたい。一元的に把握することで、特色ある取組みがより際立って把握でき、多くの取組みの中から良いものを先生たち同士で共有したり、他校での取組みを自校での改善策のヒントにするなど、有効な活用策を考えるきっかけとなるのではないか。 ・学校の規模や児童・生徒数によって取り組めるものとそうでないものが出てくると思うが、それらは必ず学力向上策を検討する上での重要な材料となる。

鈴木教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・現在でも一部の取組みについては教育委員会においても把握しており、今後についてはより幅広く、授業時間帯以外で行っている独自の取組み等について適切に把握していく。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・他にはよろしいか。
<p>< 休 憩 ></p>	
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、「学校長と教育委員会との連絡、相談体制」について伺いたい。 ・今朝の報道で、他県においていじめを学校に相談していた生徒の自殺のニュースがあった。この報道では、生徒から学校に対して相談はあったものの、学校から教育委員会に対しての連絡、相談はなかったものとされていた。 ・本市においては、各学校で発生した問題をどのように吸い上げ、把握しているのか。校長との連携や学校との連絡、相談体制の現状について、教育長に伺いたい。
鈴木教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学校においては、子ども同士のトラブルや親とのトラブル等、さまざまな事例がある。 ・それぞれ生じた問題について、各学校において初動対応を図っているところではあるが、教育委員会に相談のあった時点では、問題が非常に大きくなってしまっていたという事例も見受けられる。 ・より初期の段階で相談を受けていれば、解決までの時間も早くなるということをしつかりと学校に対しても示していきたい。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・特にいじめ問題については、いじめを受けた子ども自身が周りに訴えないことも多い。また、いじめの定義が一定ではないということもあり、周囲の目に見えてこないことも多いのではないか。 ・学校においては、子どもたちのささいな変化を敏感に感じ取り、少しでも変調が見られた児童・生徒に対しての素早いケアが非常に重要である。子どもたちの抱えている問題の発見やそれらへの対処が早ければ、解決までの道のりも短くなる可能性が高い。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で発生した大小さまざまな問題に、教育委員会がどの程度までタッチしていくのかという議論もある。 ・学校だけでは解決が難しい問題を早期に判断することが必要で、学校で起こった比較的大きな問題を、教育委員会が把握していなかったケースもあると聞く。これらについては、どのようなことが原因であると考えられるか、委員の皆様伺いたい。

岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの問題においては、先生たちが「教育委員会に対して迷惑をかけたくない」という想いを抱いているのではないか。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ある学校においては学級崩壊ともいえる状況が何ヶ月も続いてしまっていたということも聞いている。 ・全体として、相談しにくいような風潮はないか、報告しづらい状況にはないか。ささいな問題でも早期に共有できるような体制づくりや、問題が大きくなる前に複数の人に相談できる場も必要である。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・報告すること自体がはばかれるような風潮が一定程度あるのであれば、積極的な報告を学校の評価につなげるということも一つの方策ではないか。
大澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を相談すること自体が、自らの立場にマイナスとなる可能性もあると考えている先生もいるのではないか。 ・問題の大小の差こそあれ、学校単位ではなく教育委員会という大きな組織に相談していくことも必要である。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした問題は一人で考えても解決しない。多くの人の知恵を借りて、さまざまな対処策をみんなで考えることが解決への近道である。ささいなことでも教育委員会に相談できるような体制作りが求められているのではないか。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本市では教育研修センターに「いじめそうだんホットライン」を設けて運用しているが、年間の相談件数はそれほど多くない。相談することによって、問題がさらに大きくなり、先生や学校に迷惑をかけてしまうと考える子どもたちも多いのではないか。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との意思疎通の課題については、引き続き皆様と意見交換をしていきたい。 ・また教育長においては、「学校のことは何でも知っている」というくらいの気概を持ってぜひ取り組んでいただきたい。 ・他にはよろしいか。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、「行田市公立学校通学区域等審議会」について一点要望したい。 ・学校の規模が小さくなってしまふことによって、例えば希望の部活動に入れなくなったりと、子どもたちにとってもその影響は大きいものである。また、複式学級ではなく、より大人数での教育環境を望む子どもたちや保護者もいることが予想される。

<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち本人やその保護者が通学区域外の学校への通学を希望した場合、どのように対応するべきか、ぜひ通学区域等審議会においても取り上げてもらいたい。 ・通学区域は尊重しなければならないものとするが、一方で子どもたち自身の希望を叶えてあげることもまた重要である。 ・こうした新たな課題は今後も必ず発生してくる。子どもたちのよりよい未来を築くためにも、引き続き教育委員の皆様と一緒にあって、一つひとつ解決に向けて取り組んでいきたい。 <p>・その他、教育委員の皆様から何かあればお願いします。</p> <p style="text-align: center;">＜特になし＞</p>
<p>議 長</p> <p>事 務 局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、事務局から連絡事項等があればお願いします。 ・今年度の総合教育会議については、本日が最終回となる。来年度については、5月又は6月に開催したいと考えている。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、これにて議事を終了する。教育委員の皆様には、スムーズな議事進行にご協力賜り、感謝申し上げます。 ・それでは、これをもって議長の職を解かせていただき、事務局に進行をお返しする。
<p>司 会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以上をもって、令和2年度第4回行田市総合教育会議を閉会とする。 <p style="text-align: center;">＜ 閉 会 ＞</p>